



# 連合徳島

vol. 261

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35の1  
徳島県労働福祉会館内  
tel. 088 (655) 4105  
fax. 088 (655) 4113  
E-mail info@tokushima.jtuc-rengo.jp  
http://tokushima.jtuc-rengo.jp/

発行: 日本労働組合総連合会徳島県連合会

編集責任者 島 和 久

### 当面の日程

- ◎ 9月1日(火)
  - ・県民と働く者のとくしまフェスタ実行委員会
- ◎ 9月3日(木)
  - ・中小・労安センター合同学習会
- ◎ 9月7日(月)
  - ・「労働者保護ルール改悪阻止ウィーク」駅前街宣(JR徳島駅前)
- ◎ 9月13日(日)
  - ・上板町議会議員選挙(投票票)



平和のメッセージを書き込んでいる  
折り鶴を献納

連合徳島は、8月4日(土) 6日、広島平和行動に代表団34人が参加した。

代表団は、8月4日広島県竹原市にある1945年の敗戦まで毒ガスを製造していた大久野島を訪問。毒ガス工場の存在は機密性から秘匿され、日本地図からも消されていた。島内の毒ガス製造にかかわる遺跡や毒ガス資料館等を見学し、毒ガスは陸と海で引き起こしていた被害の深刻さを知り、化学兵器廃絶まで取り組んでいくことを決意した。

翌5日は、広島市平和公園内での「ピースウォーク」に参加、連合広島青年委員会から慰霊碑等の由来や当時の背景について説明を受けた。ピースウォーク終了後、広島平和記念資料館を見学。70年前原爆の映像や写真、炭火した衣類や遺品等を見て、改めて核兵器廃絶と世界の恒久平和への思いを参加者全員で誓い合った。その後連合主催の「連合2015平和ヒロシマ集会」に参加。集会では、連合本部・神津事務局長が「連合は、核兵器廃絶に向け1000万人署名活動も行った。国際労働組合総連合や平和市長会議など、あらゆる団体と連携し、核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現に向け取り組んでいく」とあいさつ。「連合死

者」の思いや願いを過去現在未来へと私たちの平和への

式典では、広島市長は平和宣言で核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に全力を尽くすと誓った。また、被爆地の子ども代表二人が「祖母父母たちが70年間ヒロシマを生き抜いて私たちに命をつないでくれた。広島に育つ私たちはこの事実を被爆者の思いや願いを過去現在未来へと私たちの平和への

### 平和行動 in 広島

## 核兵器廃絶めざし

### 原爆ドームに恒久平和を誓う



連合平和広島集会には  
全国から2,245人が結集



連合徳島から代表団34人  
(うち子ども5人)が参加

翌5日は、広島市平和公園内での「ピースウォーク」に参加、連合広島青年委員会から慰霊碑等の由来や当時の背景について説明を受けた。ピースウォーク終了後、広島平和記念資料館を見学。70年前原爆の映像や写真、炭火した衣類や遺品等を見て、改めて核兵器廃絶と世界の恒久平和への思いを参加者全員で誓い合った。その後連合主催の「連合2015平和ヒロシマ集会」に参加。集会では、連合本部・神津事務局長が「連合は、核兵器廃絶に向け1000万人署名活動も行った。国際労働組合総連合や平和市長会議など、あらゆる団体と連携し、核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現に向け取り組んでいく」とあいさつ。「連合死

者」の思いや願いを過去現在未来へと私たちの平和への

式典では、広島市長は平和宣言で核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に全力を尽くすと誓った。また、被爆地の子ども代表二人が「祖母父母たちが70年間ヒロシマを生き抜いて私たちに命をつないでくれた。広島に育つ私たちはこの事実を被爆者の思いや願いを過去現在未来へと私たちの平和への

## 万灯流しに 平和の祈りを のせて

### 平和行動 in 長崎

連合徳島は、戦後70年という節目にあたり、連合本部の主催する平和行動に参加しており、8月8日から9日にかけて、「平和行動in長崎」には、森本会長・加村徳島市議会議員をはじめ4名が参加した。

8月8日、長崎県立総合体育館で開催された「連合2015平和集会長崎」では、連合本部を代表して、古賀会長があいさつ。連合長崎の今日までの取り組みに敬意を表するとともに、人

類は原爆の経験、長崎を最後にしなければならぬと訴えた。

また、被爆者の体験談では、当時の悲惨な情景について生々しく触れられ、集会参加者は衝撃を受けている様子であった。

翌9日は、長崎市の主催する「被爆70周年長崎原爆犠牲者慰霊平和記念式典」に参加した。会場は、式典入場制限が早々にとられ、音声およびモニターでの視聴となったが、70年ということから全国から大勢の参加者で覆われた。11時2分、鐘の音を合図に全員で黙祷をささげた。

また、安倍総理の参列ということもあり、会場周辺での各種反対行動への対策からか、厳重な警備体制が敷かれていたことも特徴であった。

その後、連合長崎のスタッフの企画・説明による「ピースウォーク」に参加した。原爆投下中心地・当時の土壌サンプル・平和の泉・式典会場・原爆資料館を詳細な説明を受けながら一巡することことができ、70年前の状況を窺うことができた。また、炎天下の中で準備・運営にあたって頂いた連合長崎のスタッフの皆様にご頭下がった。

行動の最終は、「万灯流し」であった。当時も今も流れる浦上川。70年前のあの日、水面に油が浮き、とても飲める状況ではなかったことであるが、平和の泉の石碑に記された少女

類は原爆の経験、長崎を最後にしなければならぬと訴えた。

また、被爆者の体験談では、当時の悲惨な情景について生々しく触れられ、集会参加者は衝撃を受けている様子であった。

翌9日は、長崎市の主催する「被爆70周年長崎原爆犠牲者慰霊平和記念式典」に参加した。会場は、式典入場制限が早々にとられ、音声およびモニターでの視聴となったが、70年ということから全国から大勢の参加者で覆われた。11時2分、鐘の音を合図に全員で黙祷をささげた。

また、安倍総理の参列ということもあり、会場周辺での各種反対行動への対策からか、厳重な警備体制が敷かれていたことも特徴であった。

その後、連合長崎のスタッフの企画・説明による「ピースウォーク」に参加した。原爆投下中心地・当時の土壌サンプル・平和の泉・式典会場・原爆資料館を詳細な説明を受けながら一巡することことができ、70年前の状況を窺うことができた。また、炎天下の中で準備・運営にあたって頂いた連合長崎のスタッフの皆様にご頭下がった。

行動の最終は、「万灯流し」であった。当時も今も流れる浦上川。70年前のあの日、水面に油が浮き、とても飲める状況ではなかったことであるが、平和の泉の石碑に記された少女



平和を願ったメッセージを書いた灯籠



灯籠で形づくった戦後「70」年の文字

の言葉が思い出された。「のどか乾いてたまりません。水はあぶらのようなものが一面に浮いていました。どうしても水が欲しくてとうとうあぶらの浮いたまま飲みました」ほほ涙が流れた。

日の沈みかけた19時、全国の連合の仲間、長崎市

菅陸上競技場内に準備していただいた「灯籠」に平和を願ったメッセージを書き、一般参加者とともに厳かに浦上川にろうそくを灯した万灯を浮かべ、一同祈りを捧げた。

流れ行く万灯をみつめ、長崎を最後にしなければならぬ、と改めて誓った。

本年度の最低賃金審議は、5月22日から8月26日の間、労働者代表・使用者代表・公益代表により、審議が重ねられた。

連合徳島役員で構成する労働者代表委員は、中央最低賃金審議会から答申された目安額16円に上積みを図るべく、県内の様々な経済指標

の向上傾向や、地域間格差の是正にこだわり審議に臨んだが、一方の使用者代表委員からは、目安額も高すぎるなどとして、労使の意見一致には至らなかった。

このように、労使の意見の一致を見ないまま改定審議を重ね、10月1日発効とはならなかったが、結論を見出すにあたっては、公益委員の見解として示した「労働者・使用者双方の主張を十分理解した上で総合判断し、過去最高の目安額を尊重したい」とする趣旨を労使双方が受け止め、8月26日をもって、16円引き上げとなる695円とし、10月4日発効を確認した。なお、今後は、特定最低賃金審議に参画していくこととなる。

2015年10月4日からの  
徳島県の法定地域別  
最低賃金

1時間あたり  
**695円未滿は  
法律違反!!!**

本年度の最低賃金審議は、5月22日から8月26日の間、労働者代表・使用者代表・公益代表により、審議が重ねられた。

連合徳島役員で構成する労働者代表委員は、中央最低賃金審議会から答申された目安額16円に上積みを図るべく、県内の様々な経済指標



労働者保護ルール改悪阻止と安保関連法案阻止の重要性を訴える森本会長

# 労働者保護ルール改悪阻止 ウィーク街宣行動



## — 駅前で県民にアピール —



県民にうちわとピラを配布しアピール

連合は、労働者保護ルールの改悪阻止に向け「STOP THE 格差社会! 暮らしの底上げ実現」キャンペーンを展開している。全国統一行動の第4次行動として、連合徳島は8月3日・8月7日両日JR徳島駅前前で、各構成組織から組合員延べ70人が参加し街宣行動を行った。

街宣行動は、田北副事務局長の司会進行で始まり、冒頭、連合徳島森本会長から「今、国会で労働者派遣法の改悪法案が審議されている。派遣労働を認める際には、『世界標準』とも言える2つのルールが世界各国で導入されている。①派遣労働は『二時的な働き方』②社員と派遣労働者は『均等待遇』のルールである。しかし、政府は、『生涯派遣で低賃金』を拡大する改悪法案を強引に衆議院で通過させた。もしこの法案が成立すると低賃金で都合良く使える派遣労働者が増え、企業の都合で使い捨てられる、という世の中になりかねない。今こそ、地域、職場から声を上げ、この法案を阻止しなければならぬ。さらに、与党は、衆議院の『我が国及び国際社会の平和安全法制に関する特別委員会』において安全保証関連法案を強行採決した。憲法及び国の基本政策に関わる重要課題であることから国民の理解と合意形成の努力が求められるに

もかわならず、十分な審議を尽くさず強行採決という暴挙に出たことは極めて遺憾であり、強く抗議し、阻止しなければならぬ。」と訴えた。

続いて民主党徳島県連仁木代表、あわ共同法律事務所木村弁護士、徳島県中小労働対策本部清田副議長、連合徳島女性委員会藤田事務局長、徳島県退職者連合小笠原会長はそれぞれの立場から労働者保護ルール改悪阻止と安全保障関連法案阻止の重要性を訴えた。両日で1000枚のうちわとピラを配布し、「労働者保護ルール改悪阻止ウィーク」徳島集会・駅前行動を終了した。

# 子どもたちが「安心・自信・自由」を持って生活できる社会を!

部落解放  
人権講座

子ども・女性の人權、人権政策と部落解放運動の歴史

史と展望など様々な講師陣を迎え、第26期部落解放・人権講座が8月21日県職会館にて開講され24団体27名が参加した。

はじめに主催者を代表して森本実行委員長が「世の中には多くの差別、正規・非正規、障がい者、男女、マインリティなど、とりわけ部落差別が一番大きな問題となっている。現代社会においてもなお、就職や結婚においても未だ差別が存在している。本日から始まる人権講座において部落差別問題についてしっかり研修を行い、地域や職場において運動を拡げていただきたい。」とあいさつ。

第1講座は「徳島における部落解放運動の歴史と現状」と題して部落解放同盟



子どもの人権をテーマにおとなのワークショップ



講座には24団体、27人が参加

**ワークルール検定 2015秋**

■試験日時  
2015年11月23日(月・祝)

■申込受付期間  
9月1日(火)～10月25日(日)

■初級検定  
AM10:00～12:00 (受付開始 9:20)  
講習 60分 & 検定 45分  
検定料:2,900円(税込)

■検定会場  
会場 ろうきんホール (県立中央テクノスクール)  
〒760-0001 徳島市東町2-2-64  
電話:087-821-4545  
E-mail: wrk@kwmj.com

公式テキストブック

WR検定 申し込み方法など詳しくは、ワークルール検定公式サイトまで  
<http://workrule-kentei.jp/>



非常食調理中

ボランティア  
第4講座

# 緊急事態に備え、 非常食・竹食器を 実践体験

8月29日美波町に今年オープンした「ドミトリ」聖ケ丘にて、ボランティアサポーターチーム養成講座(第4講座)を開き、22人の受講生が参加した。

はじめに、森本会長が「この地域は私が生まれ育った場所で、3連動地震が発生した時には20m近い津波の襲来が想定されている。その時の一時避難場所としても活用でき、日ごろは様々な体験学習ができる施設なので、今後も積極的に活用していただきたい。」とあいさつ。

講座は地震津波時に一時避難先に指定されているドミトリ聖ケ丘の館内説明・施設見学と旧由岐町元助役の森本さんより由岐町の歴史と津波被害そして今後の防災対策の話聞いた。森本さんからは「過去の地震で木岐は大きな津波被害にあった。このことを後世に伝えるための石碑があるが、その内容を教訓にした防災対策が必要だ。この地域は近くに山があり、避難しやすい地形だが、山には危険な生き物もいる。特にマムシには注意が必要。必ず長靴を履いて逃げる。」

その後、炊き出し講習を行い、ポリ袋で作る非常食を実践体験。非常食は、3種類。野菜を細かく切って水を少し入れ、カレーもともみほぐしながら鍋に湯を沸かし30分湯煎するだけのカレー。湯を入れて15分で出来るご飯。水をかけて浸すだけで出来るきな粉もち。連合徳島の藤原書記が講師を務め、受講生は熱心に調理。

一方、森本会長が講師となり竹を使った食器作りも行った。竹を鉋で割り、やすりで磨いて器と箸を作った時に生かしていきたい。「ライフラインが止まった時、カセットコンロとビニール袋と材料でこんなに美味しくできる」とは、なごの声がでた。

最後に事務局より、携帯用トイレ3種類を説明。それぞれ緊急事態には使っていたきたいと配布し、講座は終了した。



鉋とやすりで竹食器を作成



竹箸で非常食試食